【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成21年4月9日(2009.4.9)

【公開番号】特開2007-224459(P2007-224459A)
【公開日】平成19年9月6日(2007.9.6)
【年通号数】公開・登録公報2007-034
【出願番号】特願2006-47986(P2006-47986)
【国際特許分類】
Ｄ０６Ｍ　10/00　　(2006.01)
Ｄ０１Ｆ　 9/22　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｄ０６Ｍ　10/00　　Ｌ
Ｄ０１Ｆ　 9/22

【手続補正書】
【提出日】平成21年2月24日(2009.2.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
被処理炭素繊維束を、電解液を満たした単数もしくは複数の電解槽内に走行せしめる表面酸化炭素繊維束の製造方法であって、電解液を電解槽内へ供給する供給ラインに加熱および冷却手段を備えた電解液供給装置を有する電解表面処理装置を用い、供給する電解液を前記電解槽内の電解液の平均温度が５℃以上６０℃以下、かつ、前記電解槽内の電解液の最高温度と最低温度の季節間および昼夜間での温度変動幅を５℃以下とすることを特徴とする表面酸化炭素繊維束の製造方法。
【請求項２】
前記電解表面処理装置が、断熱材で構成された囲いにより、周囲の雰囲気と遮断され、かつ、該囲いの中の温度が制御されている請求項１に記載の表面酸化炭素繊維束の製造方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本発明は、上記課題を解決するために次のような手段を採用するものである。すなわち、本発明の表面酸化炭素繊維束の製造方法は、被処理炭素繊維束を、電解液を満たした単数もしくは複数の電解槽内に走行せしめる表面酸化炭素繊維束の製造方法であって、電解液を電解槽内へ供給する供給ラインに加熱および冷却手段を備えた電解液供給装置を有する電解表面処理装置を用い、供給する電解液を前記電解槽内の電解液の平均温度が５℃以上６０℃以下、かつ、前記電解槽内の電解液の最高温度と最低温度の季節間および昼夜間での温度変動幅を５℃以下とすることを特徴とするものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
かかる表面酸化炭素繊維束の製造方法の好ましい態様は、
（１）該電解表面処理装置が、断熱材で構成された囲いにより、周囲の雰囲気と遮断されており、かつ、該囲いの中の温度が制御されていること、
である。